

電力技術研究会シリーズ⑤ 電力施設専門部会

電力施設専門部会は、電力流通技術に関わる社内外の幅広い分野の委員21名で構成され、1年に3回開催する会議において電力流通設備の保守・建設技術に関する研究開発に対して活発な討議、意見交換を行っている。

最近の部会では、世界規模の会議における当社の活発な情報発信に関して、社外に対する開発成果のアピールの重要性が話題となっている。

当社の電力流通部門においては、過去からCIGRE、IEEEなどに研究成果を多数発表している。特に平成14年度はガス絶縁送電線（Gas Insulated Line：GIL）についてCIGREパリ大会をはじめ3つの国際会議に出展し、世界の電力技術者に当社の世界一の技術をアピールした。

これらの概要が第84回電力施設専門部会で報告され、それに対して同大会に出席した大学委員から「海外技術者の中部電力に対する技術的評価は高く、好評であった」との報告をいただいた。

質疑では、CIGREをはじめとする国際会議は、電力分野における最新の技術が発表され、将来の方向性が論議される重要な場であり、これらの場において自らの技術を積極的に主張することが研究成果をより高めることになることなど、社外に対するアピールの重要性についての意見交換がなされた。

また、当社で行っている送電線地絡故障点表示装置

（G・ファインダー）の長寿命化に関する研究の紹介に対しては、社外における普及が製造コストの低減など当社の収益に結びつくことから、装置のメリットを他の電力会社などにアピールすることが重要との意見も出された。

今年度の電力施設専門部会では、電力流通設備における保守技術の高度化に関わる研究開発を主軸に据え、活発な議論を行っている。

今後も研究の成果や保有する技術を社外に向けて一層積極的にアピールするとともに、国際会議などで発信される最新の情報を共有し、新たな視点からの技術開発に向けて、産学連携の効果を最大限に発揮した研究活動を行っていく。



変電所建設工事視察状況

第10回 材料シンポジウムを開催

「材料の高度補修技術」をテーマに、当社技術員のレベルアップを図る

去る平成15年3月7日、電力技術研究所において第10回材料シンポジウムを開催した。これは、当社従業員の技術力向上を目的とし、昭和63年から隔年毎にテーマを設定して電力技術研究所材料チームにて実施しているもので、今回で10回目となった。

今回は「材料の高度補修技術」をテーマとし、講師として三菱重工業株式会社 岡田郁生主席技師、トーカロ株式会社 原田良夫技術顧問をお招きし、長年の電力設備に関する研究活動を基に、溶接補修技術や溶射技術についての講演をしていただいた。

当日は、火力部門の保守の最前線を担う副長から若手技術員まで幅広く約50名が参加し、講師の方の話に熱心に耳を傾けていた。各講演の後には、活発な質疑応答があり、参加者からは、最新技術の現場適用によって設備の延命化・保修費用の削減につなげていきたい

という意欲が感じられた。

また、電力技術研究所材料チームで実施している補修技術に関連した研究の紹介を行い、現場の方に研究所の活動内容を知っていただくとともに、今後も相互に協力して問題を解決していくことを確認し、盛況のうちに閉会した。



写真-1 原田講師による溶射技術についての講演



写真-2 熱心な質疑応答